

Rep-i : MRの評価分析



REP-i



調査概要

調査目的： MRの総合評価/改善ポイントの明確化
 調査方法： インターネット調査
 調査対象： 全国の臨床医

有効回答： 10,300s (2017年2月)
 調査期間： 年2回 (2月・8月)
 調査主体： 株式会社アンテリオ



MR総合評価

※Rep-iではMRの評価を「低」「普通」「高」「No.1」の4段階で評価。下記ランキングでは「高」+「No.1」の合算。
 ※下記結果は診療科問わず（絞込みも可）

2016年2月結果 2017年2月結果

1 第一三共	1 第一三共
2 武田	2 武田
3 MSD	3 MSD
4 アステラス	4 大塚
5 ファイザー	5 ファイザー

▶ 特に大きな変動があったメーカー

※3つ以上の変動

順位が上がったメーカー

リリー	10位	→	7位
大鵬	27位	→	21位
帝人	29位	→	26位
鳥居	38位	→	35位

順位が下がったメーカー

エーザイ	9位	→	12位
大正富山	20位	→	24位
科研	24位	→	27位
サノフィ	26位	→	30位
BMS	35位	→	38位
日本新薬	34位	→	37位

大塚が前年より総合評価の順位を2つ上げる
消化器内科での高評価が寄与

全国の臨床医が高く評価したMRは前年と変わらずトップが第一三共、2位が武田、3位がMSDであった。

上位5メーカーに大塚（6位→4位）がランクインし、一方でアステラス（4位→6位）が6位へとランクダウン。順位を一つ下げたアステラスは、主に呼吸器内科・整形外科で順位を下げていることが影響していると考えられる。

イーライリリーは14年から16年にかけてMRを増員し、一部診療科でのカバー率向上もあり、14年から12位→10位→7位と順位を毎年上げている。

一方でサノフィは前年からMR数が減少しており、今回4つ順位を下げていることから組織体制の見直しも順位変動に影響したと考えられる。

15年4月に味の素製薬との合併会社「EAファーマ」へ百数十人出向したエーザイはMR数が減少したこともあり、順位が3つ下がっている。

本調査結果・Rep-iに関するお問い合わせ

ant-syndicated@anterio.co.jp

Rep-i : MRの評価分析



Rep-i



診療科別のMR総合評価

※下記結果は診療科問わず（絞込みも可）

杏林が耳鼻咽喉科、イーライリリーが整形外科においてそれぞれ1位を獲得

耳鼻咽喉科の評価において、杏林が1位を獲得した（前年3位）。カバー率・訪問頻度も増加しており、昨年11月に発売されたデザレックスの影響が高いと考えられる。コ・プロモーションしている科研については、皮膚科において評価が上がっており、昨年6位から3つ順位を上げ3位まで上昇している。また、昨年耳鼻咽喉科で1位を獲得したMSDは、順位を11位まで下げている。

整形外科では、昨年1・2位であった第一三共・ファイザーが今年はそれぞれ3・4位へと後退し、イーライリリー・旭化成がTOP2へ上昇した。イーライリリーはカバー率は横ばいだが、訪問頻度が増加しており、サインバルタが「慢性腰痛症に伴う疼痛」の適応を取得したことが影響していると考えられる。一方で旭化成はカバー率・訪問頻度ともに増加している（旭化成は2016年11月に年1回投与の骨粗鬆症治療薬リクラストを発売している）。

▶ 耳鼻咽喉科

2016年2月結果 2017年2月結果

1 MSD	1 杏林	➔
2 田辺三菱	2 GSK	➔
3 杏林	3 Meiji Seika	➔
4 GSK	4 サノフィ	➔
5 Meiji Seika	5 田辺三菱	➔

▶ 整形外科

2016年2月結果 2017年2月結果

1 第一三共	1 イーライリリー	➔
2 ファイザー	2 旭化成	➔
3 イーライリリー	3 第一三共	➔
4 旭化成	4 ファイザー	➔
5 中外	5 久光	➔



地域医療に対して貢献している製薬メーカー

※2017年2月度調査より新たに聴取

- 1 武田薬品工業
- 2 第一三共
- 3 大塚製薬
- 4 アステラス製薬
- 5 エーザイ



MRに関する能力やディテールの質ももちろんだが、エリア単位での医療貢献も各メーカーで重視されており、今後も注視をしていく必要がある。

まだまだ該当する製薬メーカーがない、という医師も多く、各社の取組みが待たれる。

本調査結果・Rep-iに関するお問い合わせ

✉ ant-syndicated@anterio.co.jp